

佐呂間町弘報

第13号
発行所 佐呂間町役場
編集人 佐呂間町長 船木長一郎
印刷所 佐呂間町印刷所
総務課長 佐呂間町印刷所

町ほう賞条例に基づく初の功労者の

表彰式盛大に舉行される

菊花薫る而も勤勞感謝の日十一月二十三日午前十時より本日褒賞条例に基づく初の功労者表彰式が佐呂間町議事堂において舉行され、たが参列者は町議會議員、自治会長、教育委員等約百余名式でんに参列多年にわたる地方自治の発展と住民の福祉の向上に盡された者又は孝子節婦として力のかぎりをなされた者等次の二十八名がその光榮に浴し感激全町にみなが午後三時盛會裡に終りました。

自治功勞者
吉川 久太郎

式 辞

佐呂間町長

船木長一郎

菊花薫る今日の佳き日町内

後田 治作
山口 愛光
徳武 伊喜男
菊池 周蔵
岸本 茂
西沢 勝次郎
太田 勝次郎
多田 茂一
弘内 清海
内田 金晴
高橋 茂一
本多 繁治
産業功勞者
杉谷 安蔵
林 由太郎

山田 梅吉
神達 要
山内 留作
大沢 昌司
真如 道光
下谷 与三
河村 テノ
明坂 国枝
惣田 キミ子
福井 菊枝
孝子
成ヶ沢 朝子
佐久間 政吉

教育功勞者
山内 留作
大沢 昌司
真如 道光
下谷 与三
河村 テノ
明坂 国枝
惣田 キミ子
福井 菊枝
孝子
成ヶ沢 朝子
佐久間 政吉

(被表彰者記念撮影)

有志各位多数の御臨席をい、たなき本町褒賞条例による初の功勞者を御招き申し上げ、茲に表彰式典を舉行致しますことは私の最も欣快とするところであります。

顧みれば大正四年十一月北海道二級町村制を実施せられ村名を佐呂間と改称してより以来四十年今や人口一万余を算え行政諸機関は整備し交通は四通八達、教育

文化の基礎は確立し意味深い平和な町として隆々発展しつゝありますが此の間極



て困難な開拓には先達者を中心として町民和衷協同克く困苦乏に堪え孤々として倦むことなく今日の町勢を夢に見つゝ郷土建設の各分野に寝食を忘れた積年の御努力があり又一面雄図空しく非命にたをれた夫の遺命を受け継ぎ職手よく家業を守り子女の育成を全うされた節婦或は病床の父母に孝養を盡し兄弟姉妹を扶けた孝子等幾多の善言善行者の御功徳が今日の進展を為しとげたもので御座居まして心から敬意を捧げ感謝を申し上げる次第で御座居ます。

然るに敗戦による世相のこん迷誤れる自由主義思想は自然放縱を招き社会道徳の低下著しくともすればかゝる美風すら否定されんとする現況に鑑み先駆者の偉業は勿論かくれた德行精勵格勳の職場人を顕彰し後進の者をして鞭撻奮起せしめると共に社会浄化の一助たらしめんとして褒賞条例を設けた所以であり今度の授賞者選衡に当り

為諮問委員会に於いて慎重
審議の上、二十八名を決定
申上げた次第であります。
自治功労者の方々に
は申すまでもなく本町百年
の繁栄のために私利私慾を
離れ義實を忘れて通信交通
網の整備拡充町有財産の獲
得消防組織の確立等故郷に
違のない御功労者に対し心
より敬意を払うものであり
ます。

産業功労者の方におきまし
ては本町産業の先覚者とし
てあらゆる困苦に打ち勝ち
てあらゆる困難を開き或は
現在の毀壞の途を開き或は
同一職場において誠心誠意
業務の隆昌発展にさいしか
の陰日向なく盡された方々
であり、社会教育功労者の
方々には多年本町教育界に
あつてつきぬ熱情と高邁な
る識見を以つて文化の貢げ
んに役立つ人材の養成に盡
精せられたのでありまして
厚く感謝致します。

孝子節婦の方々として今回
六名の表彰該当者を得られ
ましたことは戦前には幾多
の美談善行も少なくなかつ
たのでありますが終戦後の
こん乱期を通じて道義地に墜
ちたりと嘆かわしめて居り
ましたときこゝに私達が望
み止まぬ努力精進忍苦
耐乏の健気なる方々を見出
し得ましたことは誠に心の
温まる思いであり世道人心

の奮起を促す好個の事例で
あります。
今や終戦十年の才月をけみ
し再建日本の復興も目覚し
く再び独立国家として平和
な自由国家群の一員として
国際社会に復帰し日本国民
の真価を世界に問うべき重
大岐路に当り国家形成の要
素である、自治の振興に期
してまつべきもの誠に大な
るものがあります。秋皆様方
の御功績は何物にも換えが
たき身をもつての教訓であ
り深く衷心より賛仰すると
共に将来の道しるべと致す
所存で御座居ます。

終りにのぞみ皆様方の永年
の御功労を謝し厚く御礼申
上げ更に本町発展のため一
層の御協力をお願い致しま
して一言もつて式辞と致し
ます。
昭和三十年十一月二十三日
佐呂間町長 船木長一郎

祝 辞

佐呂間町 山内春芳
議長

本日は勤労感謝の日であり
まして国民全体が挙げてお
互の勤労に對し感謝し合う
この記念すべき佳き日に、
真に意義深き日であります
本町の自治、産業、教育の
この労働者各位、並びに孝子
節婦の方々の表彰感謝の式

典が挙行されましたお祝の
言葉を申し上げますことは
私の最も喜びとする処であ
り感慨無量のものがありま
す。
本町は大正三年に佐呂間村
として發足以来正に四十有
余年に垂々としていますが
更に速く常呂村戸長役場時
代の明治卅数年ごろにも既
に本町に移住された方々も
ありまして、爾來昼高暗き
うつそうたる山林を切開い
て閑居に従事し道なき処に
道路を造り橋を架け、又学
校を建て孤々宮々として開
拓に努力せられ或いは、教
育者として永年に亘り本町
住民の子弟教育に盡精せら
れ遂に今日の理想郷佐呂間
町に発展の基礎をつくられ
たかたがたでありまして私
共は、これ等先輩元老の偉
業を受け継ぎ本町の自治行
政に参画している者と致し
まして心から本日表彰を受
けられるかたがたに對し深甚
なる感謝の真を捧ぐるもの
であります。

一億一心必勝を期したかつ
ての戦争も空しく敗戦の現
実となつて終戦となり希望
を失つた当時、国民の氣持
は、所謂茫然自失なす処を
知らず虚脱状態でありまし
て、生活は極度に困窮し、
思想は動搖し勞使に至る処
で反目し同胞相食む悲劇は

隨所に見られたのでありま
した。以来十年人心も漸く
落付きを取戻し独立国家と
して立直りつつあるとは云
え、今日尚人心は輕兆浮薄
に流れ自らの生活に追はれ
て他を顧みる暇なく甚しき
に至つては他人をおとし入
れても恥ずる事なき人々が
往々にして見かけますとき
皆様かたの様に私利私慾を
離れてひたすら郷土愛の精
神に燃え住民に率先しその
中心となり自治産業教育の
進展のため努力せられた御
功績は町発展と共に益々永
く残りますと信ずるもので
あります。

又孝子として節婦として本
日表彰を受けられるかたが
たは、自己を犠牲にして良
く病身の父母、祖父母に仕
えながら家業を守り或は若
き末人として多数の子女
の養育に努め良く夫の偉業
を受け継ぎ、その家業に専
念された努力は全町民の模
範として激賞さるべきかた
がたでありまして口頭のな
みなみならぬ御苦勞に對し
謹んで御慰問申し上げる
次第であります。

以上簡単粗辞でありました
が一言申し上げ御祝辞に代
える次第であります。

お祝いの詞
佐呂間婦人協議会長
土田 富貴江
清浄の感一入深い白一色の
今日の佳き日、多年の御心
勞と御努力が報いられた表
彰の榮を担われました皆々様
に町婦人会々員を代表致し
まして一言お祝いの詞をのべ
させて戴きます。

今日佐呂間町として長足の
発展を致しました陰に長年
社会教育に、自治行政に新
開地開拓のためつくされた
かたがた、又御主人亡き後
御両親亡き後一家の柱とな
つて家業に専心なさいまし
た方がたの御苦勞御こづ績
は私どもの測り知れぬもの
がある事と存じます。

本日私は私如き者が榮あるこ
の式典に参列し大先輩の方
々にせん越でありますが御
祝の言葉を申し上げますこと
の出来ます今日といふ日を
お与え下さいましたことに
對し心から御礼申し上げます。
先程町長さんの式辞を始
め来賓各位の御祝詞を通し
て皆様方には、私達がまだ
孤々の声をあげ得なかつた
想は誠に永い、年月を
一意専心夫々の立場にあつ
て一身一家を顧り見ること
なく、ひたすら今日の郷土

御祝の言葉
佐呂間町青年団体協議会長
佐藤 諭
本日は私如き者が榮あるこ
の式典に参列し大先輩の方
々にせん越でありますが御
祝の言葉を申し上げますこと
の出来ます今日といふ日を
お与え下さいましたことに
對し心から御礼申し上げます。
先程町長さんの式辞を始
め来賓各位の御祝詞を通し
て皆様方には、私達がまだ
孤々の声をあげ得なかつた
想は誠に永い、年月を
一意専心夫々の立場にあつ
て一身一家を顧り見ること
なく、ひたすら今日の郷土

てらす一条の光明として私
ども婦人への何よりの道案
内でありまして共に、私ど
ものこの上もない誇りと力
びよく感謝の念を禁じ得ま
せん。今後共益々婦人のも
つ底力と愛の大きさを身を
もつてお示し下さる様お願
い致します終りに望みまし
て益々御健康に注意下さい
まして町発展のためにおつ
くし下さいます様お願いし
て拙いお祝いの詞にかえさ
せて戴きます。

終戦後のこんらん期からな
かなか抜けきれず一口に申
し上げれば自由といふこと
を誤つて解釈し輕薄に流れ
自利心を忘れ、義務と責任
の觀念が殘念ながら日々た
すたれつゝあつたと云つた
のがつい最近までの青年の
姿であつたのであり、ただ
恥かしいばかりであります
然し月日の流れとともに私
達も日本の前途は多難であ
り青年の使命こそ愈々大き
いことを自覚し一進一退は
せずとも一致団結し農村は
農村青年の市街は市街地域
青年の夫々の立場にあつて
理想の新しい日本の建設
に進みつつあります。

皆様方から見れば遅々とし
て進まぬ反すうの様に本当
にはがゆく然もたより氣の
ないものゝ様に思はれるで
あゝせうが、私達青年が真

佐呂間町繁栄のため文字通
り粉骨砕心仿かれた方々
ばかりであることを拝聴し
深い感謝を受け會員を代表
し謹んで感謝を申し上げ
ます。

更に本日御元氣な姿に接し
心から御祝申し上げます。
この機に當り私達は皆様方
の厚い数多の業績をしのび
佐呂間町に生をうけた者と
して、又皆様方の後継者た
る青年として新たに反省を
致すものであります。

終戦後のこんらん期からな
かなか抜けきれず一口に申
し上げれば自由といふこと
を誤つて解釈し輕薄に流れ
自利心を忘れ、義務と責任
の觀念が殘念ながら日々た
すたれつゝあつたと云つた
のがつい最近までの青年の
姿であつたのであり、ただ
恥かしいばかりであります
然し月日の流れとともに私
達も日本の前途は多難であ
り青年の使命こそ愈々大き
いことを自覚し一進一退は
せずとも一致団結し農村は
農村青年の市街は市街地域
青年の夫々の立場にあつて
理想の新しい日本の建設
に進みつつあります。

剣に希望をもち一つの目的に向つて漸く芽生えた息吹に皆様の、あるときは愛の叱責をいただき、又尊い御指導を御寄せ下さいませ。心から御願ひ申上げます。

私達青年は皆様の残された尊い多くの偉業と御功績を心の糧として、必らずや良き後継者となり今日ある社会の恩恵の万分の一にもむくいる覚悟であります。

理想郷佐呂間町の建設のため愈々青年としてなすべき分野と責任を以て完遂することを堅く御誓ひし最後に皆様の御健康を心からお祈り申上げお祝の言葉と致します。

答 辞

被表彰者代表

徳武伊喜男

本日は私達のためこのように盛大な表彰式典をあげていただき、一同深く感謝致して居ります。

表彰を受けました過去の業績が本当に褒賞条例の適用に価するかどうか、只単に町民として又社会人として当り前のことをしたただけであり、顧みて汗顔の至りと

は存しますが、皆様の御厚情に對しまして今後共一同力の及ぶ限り郷土佐呂間の発展のために盡す所存であります。

どうか一層の御援助御鞭達を賜る様お願い致しまして答辞と致します。皆様お忙しい中をありがとう御座居りました。

自治会長・火防・衛生組合長の改選について

町内の各自治会長、火防衛生組合長並に、これら附属機関役員の改選については毎年一月更新改選をして来て居りましたが本年一月の自治会長会議その他の会議等にて役場の会計年度と同様に四月更新改選せられるように要望、そのように実施することに決定致しましたので町内全体がこの線にそつてすべてを処理せられるようごに改めお願い致します。

青年幹部講習会

町青協主催町教育委員会後援による昭和三十年度青年団幹部講習会は、十一月二十六日二十七日の二日間に亘り町議会議事堂に男女青年

幹部約四十名が参集し講師として北海タイムズ社論説委員久手川勝治氏、教育委員会総務事務局指導主事浅利清一氏、置戸町教育委員会指導主事玉忠男氏を招き時局講演を始め、良き基礎訓練、リクリエーションの実技等について研修し、分科会では同基金造成事業計画の樹てかたと推進のほう法等について討論をし盛会のうちに終了した。

お米の配給について

十二月分の米の配給は内地米七日、モチ米五日指定外米二日、外来米一日、正月分特配モチ米三日、一月分先渡内地米二日で二十日分の米が配給されます。正月用のモチ米はこれで十一月分未配給の二日で合計十日分一人当たり平均二升七合が配給されます。なほ希望のかたには十二月分内地米及び一月分線上配給の内地米合計九日分のわく内で振替配給を受けることができます。希望配給は毎月同よう三日分ですから御知照下さい。

商工係

俳句

佐呂間中学校二年生の作品

永井 勝郎

母死にて 寂しく暮す 夜は長き

初雪や わらべたわむる 声聞ゆ

初雪に 初スキすべり 初ころび

今は亡き……評 母にさきだたれその寂寥は

第十回青年弁論大会

町青協主催教育委員会、役場後援による才二回青年弁論大会が二回プロジェクト発表大会入賞者決る

1位 過去の殻から脱却せよ 久野三男 知来青年

2位 青年と人生 安部進 佐呂間青年団

3位 青年と教養 堀 豊 浪速青年団

4位 生活改善に関する一考察 津田義一 仁倉青年団

5位 人類の危機をすくえ 伊東一知来せい年団 (団体) 一位知来青年団

6位 二位佐呂間青年団三位浪速青年団

7位 プロジェクトの部 (個人)

1位 牛乳飼料の切下げについて 津田義一 仁倉

十年二十年と云えども消えることの出来ない心のシルエットです。

成長期にある子供のすべてを動揺させ、精神的なやわらぎもなく生活することでせうと思うと

私の責任は、この小さな心に少しでも明日への灯をともしてやらなければならぬと感じます。最後に真白雪と放つ語は胸に深くきざまれるものがありました。

十一月行事表

一日 積雪寒冷作地帯五ヶ年計画樹立説明会出席のため大橋書記遠軽町へ

二日 自作農創設維持資金打合せ 於議事堂

四日 開拓者牛購買 於種馬所

四日 町村会臨時総会及び農試移転協議会出席のため船木町長北見市へ

六日 失業対策事業計画書提出のため有川課長札幌市へ

七日 社会事務担当者会議出席のため佐藤通書記遠軽町へ

七日 公営住宅建設促進会議出席のため佐藤課長札幌市へ

十三日 農地改革十周年記念式典出席のため土田助役網走市へ

十五日 失業対策事業四、四半期策定会議出席のため有川課長苫小牧市へ

十六日 防犯映画会開催 於佐呂間中学校

十七日 公立文教施設並びに三振法事務担当者打合せ会議出席のため幸松主事網走市へ

十八日 教育長会議出席のため土田教育長軽井町へ

七日 永井代議士婦朝個人演説会 於議事堂

十三日 国保運営協議会委員研究協議会出席のため有川課長旭川、札幌市へ

十一日 消防だん長会議出席のため林保副だん長北見市へ

十一日 助役会議出席のため土田助役湧別町へ

十二日 日赤家庭看護法講習会開催 於佐呂間消防会館 仁倉

十三日 農地改革十周年記念式典出席のため土田助役網走市へ

十五日 失業対策事業四、四半期策定会議出席のため有川課長苫小牧市へ

十六日 防犯映画会開催 於佐呂間中学校

十七日 公立文教施設並びに三振法事務担当者打合せ会議出席のため幸松主事網走市へ

十八日 教育長会議出席のため土田教育長軽井町へ

十八日 幌岩地区電気運管役員会出席のため相田課長浜佐呂間へ

十八日 十九日 戸籍事務協議会出席のため中村主事

- 迎養町え
二十日 秋季家畜市場開催
於種馬所
二十一日 教育長会
議出席のため土田教育長
北見市え
二十三日 全道議員
大会出席のため西田副議
長札幌市え
二十一日 年末金融特別懇
談会出席のため相沢書記
遠軽町え
二十二日 町内教育研究会
於富武士校
二十三日 昭和三十年度こ
う労働表彰式 於町議事
堂
二十四日 遠軽地区集約酪
農委員会出席のため相田
課長遠軽町え
二十四日 昭和三十年度固
定資産の平均価格に関す
る会議出席のため市川書
記網走市え
二十四日 高武士中学校増
築落成式 於富武士校
二十四日 二十五日 地方税
務講習会出席のため岸
本主事網走市え
二十四日 二十七七日 社会福
祉施設視察のため民生委
員中村主事札幌市、室ら
ん市え

- 二十五日 北見市役所庁舎
落成式出席のため船木
町長北見市え
二十六日 教育長会議出
席のため王田教育長北見
市え
二十六日 二十七七日 せいね
ん幹部講習会開催 於議
事堂 講師網走教委浅利
主事、玉手公民館長、北
海タイムス社説論委員久
手川勝治氏
二十七日 町内せいねんだ
ん弁論大会 於議事堂
二十六日 耕土培養事業打
合せ協議会出席のため
大橋書記北見市え
二十七日 三十日 教育委員
及び幸松主事、先進地視
察のため置戸、く知安、
玄極、喜茂別、白老、苦
小牧市え
二十八日 橋本北見管林局
長難波接接のため米町
二十九日 町内学校長会議
開催 於仁くら校
二十九日 町村合併懇談会
開催 於町議事堂 道地
ほう課長、小島網走支庁
長外來町
二十七日 二十四日 全国町村長
大会出席のため船木町
長東京都え

煮加減が大切な貝類

ナベ料理チリは「魚より豆腐」

寒い日は一つのナベを開ん
だ温かい食事が何より喜ば
れます。この味の味をつけ
て食べる「わが家のナベ料
理」といふものをめいめい
で工夫したいものですが、
魚貝類を使ったナベ料理の
基本となるものを知ってお
きたいものです。

▽チリナベ▲白身の魚だつ
たらだいたい何でもよろし
い。チリの味は魚より豆腐
をこのむのが通といふこと
になっています。

魚をダシとして用いるには
頭やアラのほうがおいしい
のです。セリ、ミツバ、春
菊などのあを味は煮すぎる
とアクが出るから、一度煮
たつたら、すぐひき上げる
ことも大切です。白身の魚
イチョウにきざんだ大根、
豆腐、お味噌類と二はいい
すを用意します。二はいい
すをつくる時は、普通の酢で
も結構ですが、タイダイ、
ユズにしたことはありませ
ん。しほるときは一息にし
ることも、二度も三度もし
ることは禁物。

カキナベは周囲にミソをド
テのようにきずいてまん中
でカキを煮るのを土手焼と
いいますが反対にまん中に
ミソを入れてもよいわけ。
ハマグリナベも同じほう法
です。

貝類で気をつけるのはにす
ぎないこと。ミソを入れる
ときはとくにワリシタを薄
くします。(道新より)

下農は草を見て草を取らず

上農は草を見ず草を取る、
中農は草を見て草を取る、
下農は草を見て草を取らず
といふ言葉があるがこれは
農夫を戒めた言葉だが、
このことは、ひとり百姓に
のみでなしに、国、社会の
施策に又個人の生活に貴重
な示唆を与えている。火を
見て馳せつけるは中農の消
防団、火の元に注意をおこ
たるは下農の人、船ばくの
沈没に自動車、のんびくに
水害風害にすべての災害に
見舞はれてあわてふためい
ても遅いこれらは皆草を見
ても、草を取らざる下農部
類である、医学も治療から
予防医学と考えたがが進ん
できたのも上農を志してい
るわけだが世の中はそうは
いかない、わが国には被保
護者は二百万人で人口千人
に対して二十五人になつて
います、北海道は十一万人

にうるはしき結構なる習し
と思うわれ／＼人間には年
に一度ぐらいこうしたしめ
くくりをする時がなくては
ならぬ、だから人間生活に
おいて楽しい希望多い生活
が出来るとおもふ、万物の
霊長として此の世に生存す
るわれわれ人間、明るく過
すも暗く過すもその人間の
考えかた処置のなしかたに
よるものである事は確かだ。
私はいつも師走の月になつ
て秘々と感ずる一つである
吾々人生の歩みはいつも楽
しいことばかり続くもので
はない、一寸したことか
不幸な日が続く生に對し終
止符を打ちたいうらむにも
うらみ切れない数多くのこ
ともあります。長い人生の
旅路の内にはこれ又致しか
たのないことであらうがだ
からこそ人間としての生活
の意義があるのではなかる
うか。

あとがき

(以下次号掲載)

師走の声を聞くとなんととな
く心忙しさを覚えるこの月
にその年のすべてを精算し
て新しい年を迎える、洵
にうるはしき結構なる習し
と思うわれ／＼人間には年
に一度ぐらいこうしたしめ
くくりをする時がなくては
ならぬ、だから人間生活に
おいて楽しい希望多い生活
が出来るとおもふ、万物の
霊長として此の世に生存す
るわれわれ人間、明るく過
すも暗く過すもその人間の
考えかた処置のなしかたに
よるものである事は確かだ。
私はいつも師走の月になつ
て秘々と感ずる一つである
吾々人生の歩みはいつも楽
しいことばかり続くもので
はない、一寸したことか
不幸な日が続く生に對し終
止符を打ちたいうらむにも
うらみ切れない数多くのこ
ともあります。長い人生の
旅路の内にはこれ又致しか
たのないことであらうがだ
からこそ人間としての生活
の意義があるのではなかる
うか。

(有川)